第2学年 国語科学習指導案

日時：令和6年1月31日（水）

第5校時（13：20～14：05）

児童：杉並区立富士見丘小学校

第○学年○組○○名

授業者：○○ ○○

1 単元名 「詩を作ろう」

教材名 「見たこと、かんじたこと」（光村図書2年）

2 単元の目標と評価規準

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知(1)オ)
- (2) 経験したことや想像したことなどから書くことを見付けることができる。(思B(1)ア)
- (3) 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。(思B(1)オ)
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性)

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ)	①「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付けている。 (B(1)ア) ②文章に対する感想を伝え合い自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。 (B(1)オ)	①積極的に経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、これまでの学習をいかして詩を書こうとしている。

3 単元について

児童は、本単元で同じ2年生が作った詩を読んで味わったり、自分で詩を作ったりする活動を通して詩に親しみ、その楽しさに触れる。ここでは詩について、「見たことやかんじたことを、みじかく書きあらわしたもの」と、簡潔かつ明確に説明されている。そのように表現する良さを学び、実際の作詩に取り組む。

まずは、教科書に掲載されている自分たちと同じ2年生が作った詩に触れて、近しさと親しさを感じ、自分でも作ることができるかもしれないという気持ちをもたせたい。そして、自分で詩を作る際に、見た感じたり空想したりしたことを集めるだけでなく、言葉と言葉の組み合わせが生み出すイメージの世界を創造することを楽しませたい。また、声に出した時のリズムも大切であることを伝えたり、どのように表現すれば自分の感動を上手に伝えることができるかを考えさせたりすることで、詩の奥深さを味わわせることも大切である。

本単元を行うにあたり、「ようすをあらわすことば」「詩の楽しみ方を見つけよう」という単元から引き

続きの学習を行った方がより学習活動を高めることができると考え、単元の入れ替えを行った。「ようすをあらわすことば」では、様子を表す言葉について形容詞や擬態語、比喩を使って表す学習を行う。これらの表現によって様子がより正確に生き生きと伝わることを知るとともに、実際にこの表現方法を活用して、様子を表す文章を書く。「詩の楽しみ方を見つけよう」では、擬音語や擬態語、反復や隠喩、ことばあそびなどの技法や仕掛けに気付くことや、友達に贈りたい詩を選ぶことなどの活動が行われる。ここでの学習を生かして、本単元では自分で詩を作ってみるという活動を行い、友達の詩の良さや、自分で工夫した詩の良さを見付けることができるようにしたい。

4 単元の目標にせまるための手立て

① 単元の入替え

詩の楽しさに触れたり、語彙を増やしたりするために、単元の入替えを行った。導入として「詩の楽しみ方を見つけよう」を設定し、詩の楽しさに触れ、詩にはどんな表現技法が用いられているのかを考えた。続いて「ようすをあらわすことば」を設定し、身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章のなかで使うことができるようにした。最後に本単元を位置付け、これまでの単元で学んできたことを生かし、詩を作ることを目指した。

② アイデアシートとイメージマップの活用

児童が身近な経験や想像したことから詩を書くための題材を集めることができるように、「見たこと」「聞いたこと」「楽しかったこと」等、項目を設けたアイデアシートを活用した。また、アイデアシートから選んだ詩の想像を膨らませるために、シンキングツールの1つであるイメージマップを活用した。

③ 本時における感想交流の仕方【自己理解・自己管理能力】

本単元を通して自分や相手の詩の良さに気付くことができるように、感想の視点を明確にして互いの詩を読み合って交流した後に、再度自分の詩の良さを振り返る時間を設けた。

5 本単元とキャリア教育のつながり

【低学年のキャリア教育目標】

- 自己理解・自己管理能力・・・・・・・・「自分の良さや苦手なことに気付く」
- 課題解決能力・・・・・・・・「自分のやるべきことに最後まで取り組む」
- 人間関係形成・社会形成能力・・・・「相手の気持ちを考えた行動をする」
- キャリアプランニング能力・・・・「だれかのためにすすんで行動する」

低学年として定めたキャリア教育目標は、上記の4点である。本時との関連は下記の通りである。

○自己理解・自己管理能力・・・・・・・・「自分の良さや苦手なことに気付く」

(第3次の6時間目・本時)

友達からの感想をもとに、自分で書いた詩の良さ(自分では気付かないことや、自分では苦手としていることも指摘されることも含めて)に改めて気付くことをねらいとしている。自分自身で書いた詩の良さと、友達から教えてもらった良さを受け入れて、振り返りにまとめることで自己理解がさらに高まると考える。そして、自分の能力を自分のものとして認識し、これまでに蓄えられた能力と合わせたり、使い分けたりすることで、自己管理能力の高まりにもつながると考える。

○課題解決能力・・・・・・・・「自分のやるべきことに最後まで取り組む」

(第1次の1, 2時間目 第2次 第3次の4, 5時間目)

課題を適確に捉えて、詩の表現方法を見付けたり、自分で詩を作ったりする活動を行うことで、課題に最後まで取り組む力を発揮したり、高めたりすることができると思う。

○人間関係形成・社会形成能力・・・・「相手の気持ちを考えた行動をする」

(第3次の6時間目・本時)

友達の書いた詩を読み、詩の良いところや心に残ったこと等の感想を伝える活動を行うことで、目標の達成に近付くと考える。この良いところに気付いて教えることは、相手が嬉しくなったり、気持ちが良くなったりする行動である。このような活動は、自然に相手の頑張りを認めて、相手の気持ちを考えながら取り組んでいることになる。さらには、思いやりの気持ちも育まれて、学習後も継続して相手の気持ちを考えた行動をとることができるようになると思う。

○キャリアプランニング能力・・・・「だれかのためにすすんで行動する」

本単元では、この目標の時間設定はしていないが、各学習の中で「だれかのためにすすんで行動する」ことにつながる活動を行っていくことで、その行動が自分自身の成長の糧の一つになり、行動が積み重なることで、高学年での目標である「なりたい自分の姿について考える」ことの達成の土台となるとともに、自分自身の力の向上につながると思う。

6 学習指導計画（本単元につながる単元3時間+4時間 本単元は全6時間 本時6/6時間目）

次	時	学習活動	・留意点 ○評価 ☆キャリア教育との関わり	キャリア教育目標に関する内容
第1次	1	《詩の楽しみ方を見つけよう》 ① 3つの詩を音読し、それぞれの詩の良さや感想を伝え合う。	○語のまとまりや言葉の響きに気をつけて、想像を広げながら詩を音読している。	
第2次	2	② 図書館で友達に紹介したい詩を探す。	○すすんでお気に入りの本を探している。	
	3	③ 紹介する詩をカードに視写し、選んだ理由を書いて友達に贈る。 ④ 学習をまとめる。	○すすんでお気に入りの詩を紹介している。 ☆詩の楽しさや作詩に対する意欲を高める。	人間関係形成・社会形成能力
第1次	1	《ようすをあらわすことば》 ① P94の挿絵から雨の様子を表す言葉を考える。 ② 様子を表す言葉を分類する。	・雨がどのように降っているのかを自由に表現させ、さまざまな表現の仕方があることを確かめる。 ○言葉には様子を表す働きがあることに気付いている。	
	2	③ 教材文を読み、様子を表す言葉の種類について知る。	・教科書に示されている3種類の様子を表す言葉を使うことで、表現が広がることを確かめる。 ○様子を表す言葉に興味をもって、文を作ろうとしている。	課題対応能力
第2次	3・4	④ P97の絵を見て、様子を表す言葉を使って文を作る。 ⑤ 書いた文を読み合う。 ⑥ 学習を振り返る。	・様子を表す言葉の種類を意識させながら、文を書かせる。 ・ムーブノートのコメント機能を使って友達と共有することで、自分とは異なる視点に気付かせる。また、感想を伝え合うことで、自分の作品に良さに気付かせる。 ○様子を表す働きがある言葉を使って文を書き、語彙を豊かにしようとしている。 ○3種類の様子を表す言葉を使って、語と語の続きに注意しながら文を作っている。 ☆次の作詩の学習に生かせるような視点を持つ。	自己理解・自己管理能力

第1次	1	<p>《見たこと、かんじたこと（本単元）》</p> <p>① 学校文集「アンテナ」から、昨年の2年生が書いた詩を紹介し、作詩に対する意欲を高める。</p> <p>② P98の三つの詩を音読し、詩に使われている表現方法を確認する。</p> <p>③ 例に出されている詩を使って、自分が「うれしいな たのしいな」と感じたことを書き表す。</p> <p>④ 「見たこと、かんじたことから詩を書こう」という単元のめあてを設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で心が動いたことを考えさせることで、詩に表現する経験を探す前準備をさせる。 ・うれしいことや楽しいことをテーマにした詩の型を使って書く練習をさせることで、作詩に対する抵抗感を少なくさせる。 ・友達の詩を紹介し、いいなと思ったところを伝え合う。 <p>○心が動いた経験を振り返り、進んで詩を読んだり、書いたりしようとしている。【態①】</p>	課題対応能力
第2次	2・3	<p>⑤ 表現の工夫や「たいせつ」に書かれたことについて確かめる。</p> <p>⑥ 詩の題材を見付けるために、アイデアシートに書き込む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校文集「アンテナ」を使って、同じ2年生が書いた詩を読み、様々な題材があることを知らせる。 ・どんなことでも詩の題材になることを伝える。 <p>○詩を書くために、心の動きや伝えたいことの様子を的確に表す言葉を探している。【思①】</p>	人間関係形成・社会形成能力
第3次	4・5	<p>⑦ これまで学習した表現の工夫を使って詩を書く。</p> <p>⑧ グループ内の友達の詩を読んで、相手の詩の良さについて付箋に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の詩を参考にしたり、「ようすをあらわすことば」で学習したことを振り返ったりして、読む人に詳しく伝わるような表現の工夫をするとよいことを伝える。 <p>○経験したことから書く材料を集め、表現の工夫を使って詩を書いている。【知①】</p>	課題対応能力
	6 (本時)	<p>⑨ 友達の書いた詩を読み、感想を伝え合う。</p> <p>⑩ 自分の詩の良いところを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品の良さを見つけ合うことを伝える。 <p>☆自分の良さに気付くことができる。【思②】</p>	自己理解・自己管理能力

7 本時の学習（6／6）

（1）目標

- ・詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の表現の良いところを見つけることができる。

（2）展開

時	学習活動	留意点 ○評価 ☆キャリア教育との関わり
導入	1 本時のめあてについて確認する。	・本時の目的について確認してから学びを始める。
展開	2 グループの中で、友達が書いた詩に対する感想を交流する。 ・順番を決めて、事前に書いておいた感想を伝え合う。 ・感想が書かれた付箋は、自分の作品の下に貼っておく。	・内容についての感想が言えるように、感想の視点を明確にする。ムーブノートでの経験を想起させる。 【表現の良さ、おもしろさ】 イメージが浮かぶような言葉、思いつかなかったような言葉や文の使い方、など (例)どんな匂いがして、どんな味だったかが書いてあったので、おいしさが伝わってきました。 「すごくすごく」という書き方から、とてもうれしかった気持ちが伝わりました。
	3 グループ以外の友達の詩の良さについての感想を交流する。 ・詩を作った本人を交えて、書いた詩を読み合い、感想を交流する。 ・一人あたり3分程度で交流の流れを作る。 ★読む→書く→話す	・感想交流の流れをロイロノートで確認する。 ・それぞれ空いている席に集まるように伝える。 ・グループで感想交流をしたように、良いところの感想を伝え合わせる。
	4 友達からの感想を読んで、自分の詩の良さを振り返る。	・感想から、自分の詩の良いところがどんなところだと分かったかを書くように伝える。 ・児童の作品を例に振り返り方を伝える。
まとめ	5 ノートに書いた振り返りを発表する。	○詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の表現のよいところを見つけることができたか。 (発言・記述) ☆自分の良さに気付くことができたか。 (自己理解・自己管理能力)

（3）評価

詩に対する感想を伝え合い、自分の詩の表現のよいところを見つけている。(発言・記述)